

今後の県立高校に関する地域検討会議（第2回）（県北②地区（二戸））
意見交換の記録（要旨）

【二戸市、一戸町、軽米町、九戸村】

令和7年8月22日（金）

二戸地区合同庁舎 1階大会議室

藤原 淳 二戸市長

- ・ 二戸北星支援学校について、県北地域における特別支援教育の拠点整備に深く感謝申し上げるとともに、来年4月の開校に向けて、引き続きよろしく願います。
- ・ 福岡高校の1学級減について、大変残念であるが、少子化が進む中、高校再編の必要性については、概ね理解するところ。
- ・ 一方、意見としては、高校再編が学校の集約や規模の縮小に終始することなく、学校現場や、部活動の充実、或いは生徒数確保という基本的な取組についても併せて行っていただきたい。具体的には、福岡高校は、近年、国立大学への進学や、国公立大学の合格率において、県内で上位となっており、学級減となっても、この水準を維持、或いはさらに高めていくために、例えば、県費でも教員配置を手厚くするなど、学びの質を確保していただくことを求める。
- ・ また、7月の知事要望においても要望したところであるが、最優先事項として、福岡高校校舎の全面改築をお願いしたい。築58年が経過し、教室やトイレ、暖房設備を始め、校舎全体の老朽化、設備面での不自由さが顕著になってきており、今の社会環境、或いは教育環境に合わない校舎が、志願者減少の1つの要因とも考えている。
- ・ 高校再編の中で受け入れざるをえない部分は受け入れつつも、地域の子どもたちや保護者が地元高校に進学したい、或いはさせたいと思えるよう、地域の誇りであり、県北の拠点校でもある福岡高校の教育環境の充実について、強くお願い申し上げます。

小野寺 美登 一戸町長

- ・ 北桜高校については、推計によれば令和10年度に学級減ということとなっており、町としてもいって留学に取り組んでいかなければいけないと考えている。
- ・ 民間の事業者が宿舎的なものを取得して、それに対応していただけるという話もある。
- ・ もし、令和10年度に、学級減なった場合には、現在、校舎制をとっているが、1つの校舎に集約するといった考えはあるのか。
- ・ 現在、奥中山の農場はもう全く活用されていない状況であり、今後、県としてどのように農場跡地を活用していくつもりなのか教えていただきたい。

山本 賢一 軽米町長

- ・ 軽米高校の学級減について、大変厳しく受けとめている。
- ・ 地元の中学生については、今年含めて半分ぐらいしか入学していない状況であり、何とか地元の中学校から、地元の高校への進学を増やしていきたいと考えている。
- ・ 学級減となれば、教員が大幅に減らされるとのことだが、現在、軽米高校では中高一貫教育も実施しているので、何とか教員の数が減らないようお願いしたい。町としても、様々な形で魅力化を図っていききたいと考えている。町立と同様の位置づけで考えており、教育振興に対し年間約1,500万円の支援を行うとともに、かなり補助もしている。
- ・ 西和賀高校のように、入学志願者の増により学級増となった例もあることから、軽米町としても、何とか2クラスに戻したいと考えている。県からの支援についても、よろしく願います。

大久保 勝彦 九戸村長

- ・ 7月の知事への市町村要望においても、1学級校の募集停止基準の20人以下について、見直しを要望したところだが、残念ながら、今回の再編計画当初案に記載があった。
- ・ 小規模校については、今年の夏の高校野球でも、大野と葛巻と伊保内の連合チームがベスト16に入るなど、小規模校の子どもたちも、短時間の練習時間の中で、お互いに切磋琢磨して、高め合っており、決して小規模校がデメリットであるとはとらえていない。
- ・ 伊保内高校については、地域創生の大きな力になっている。九戸村70周年ということで、伊保内高校の生徒を交えた座談会を行ったが、伊保内高校の生徒会長、そして今、地域みらい留学で入学した生徒の方々と意見交換行った。地域みらい留学の生徒は、地域の住民との関係が、こんなに近い学校は、初めての経験だということで、大変この田舎に住むということも感動をしていたところ。
- ・ 伊保内高校では、入学者が20人を切ったこともあったが、それを契機に、地域みらい留学を受け入れて、周りの生徒たちを含め、すごくいい影響を与えている。第2のふるさととして、九戸村で3年間を過ごすわけだが、非常に大事な時間を、自分たちと一緒に共有していただけたということで、本当に子どもも感動していた。
- ・ 募集停止の基準については、原則ということであるが、地域との丁寧な協議をお願いしたい。
- ・ 地域みらい留学については、今後、ますます力を入れて、高校生の留学を通して、地域活性化につなげていきたい。伊保内高校の存続は、地域の存続にも関わるものだと考えているので、地域との協議を進めながら、丁寧に検討していただきたい。

中村 敏昭 株式会社一戸ファッションセンター 代表取締役

- ・ 私の娘が高校進学の時になるが、八戸に習い事で通っている関係もあり、八戸に進学したいという考えがある。やはり習い事で盛岡や、八戸に通う生徒は、おのずと高校もそちらの方が選択肢に入っていくことになるのだと思う。
- ・ 一方で、地元にある近くの高校に行きたいという子どもや、交通機関や親の都合などにより近くの高校に通いたいという子どもたちにとっては、近くに高校があるということが素晴らしいことであるし助かるというところだと思う。
- ・ 子どもからの話を聞くと、やはり高校説明会や高校体験などに行くと、校舎の新しさ、綺麗さ、雰囲気の良いといった部分に魅力を感じている。そうした中、福岡高校の校舎を新しくした方が、今の若い人たちは生活しやすい学校の学びとしてもいいのだと思う。
- ・ 子どもの数が絶対的に減っていく中で、先を見据えた校舎改修や、建て替えを検討してもらいたい。
- ・ 高校の魅力発信や特色化、インターンによる地元企業との協働など引き続き力を入れてやっていただければと思う。

高橋 啓介 高常自動車工業株式会社 代表取締役

- ・ 軽米高校の学級減について、非常に残念である。
- ・ 軽米高校については、1クラスの40人定員となるが、中高一貫教育を行っている中で、軽米中学校から40人以上の応募があった場合や他の地区から応募があった場合、軽米中学校の生徒が不合格となる可能性があるのか。
- ・ 現在、軽米高校では、2年時から進学、就職にクラス分けして指導していると思うが、1クラスになった場合でも、進学と就職に分かれた指導が可能なのか。
- ・ 大野高校について、令和9年度に募集停止になると記載されているが、統合と募集停止の違いについて確認したい。
- ・ 種市高校の海洋開発科について、入学者数がかなり少ないが、統合や募集停止という基準については、他の高校との違いがあるのか。

藤館 卓弘 九戸村商工会 会長

- ・ 今回の計画において、新たに伊保内高校が地域校として指定されたことについて感謝する。
- ・ 伊保内高校は、学力や経済的な理由により進学先を選択する生徒にとっては、最終的なセーフティネットとしての役割が大きい。
- ・ 20人を切った場合についても、地域に対し丁寧に説明していただき、将来的にも、ぜひ大事にしたい。

山本 卓也 二戸市PTA連合会 会長

- ・ 人口が減っている中、学級減については仕方がないことと理解している。
- ・ ただし、市内の中学生の減少以上に福岡高校の志願者が減っていると感じている。ハード面の整備等により魅力アップしていかなければ、さらに福岡高校を希望する中学生が減るのではないかと。
- ・ また、学級減となることにより教員の数が減ることも魅力ダウンとなると思う。単位制の導入による定数増についても検討が必要と思われる。
- ・ 単位制の導入によるメリット、デメリットについて伺いたい。また、導入に向けてどのように進めていけばよいのかについても伺いたい。

加藤 暢之 二戸市教育委員会 教育長

- ・ 再編計画において、令和8年度に学級減となる4校のうち、2校が県北である。人口減少は全国的な問題であるとはいえ、県北地域についてはさらに深刻な状況であると改めて認識したところ。
- ・ 福岡高校については、近年、募集定員に満たない状況が続いていたため、学級減については懸念していたところ。
- ・ 福岡高校を進学だけの学校ではなく、1クラスを就職コースとすることで、学級減をしないという手もあるのではないかと。福岡高校で学び、安心して就職できる環境が整うのであれば、志願者数は増えるのではないかなと思っています。
- ・ 福岡高校では、この春、3名の現役生が医学部へ進学したところ。また、英語を学び、多文化共生という特徴を持つ国際教養大学への進学もあった。生徒たちは思い思いの進路実現を果たしており、多種多様な大学に進学している状況である。
- ・ 今後も、県北地域のセンタースクールとして、各自の希望に応じた進学に対応していくためにも、福岡高校には幅広い科目の開設は必要不可欠だと考えている。よって、福岡高校への進学型単位制導入を検討していただきたい。

上野 光久 一戸町教育委員会 教育長

- ・ 学級減については、もう避けられない状況であるということは理解している。
- ・ 県北地域については、令和12年度までに最大で5学級減となるが、その学級減に伴って教員の数が減ることとなる。
- ・ 私も学級減となった学校に勤務したことがあるが、その学校では毎年2名ずつ教員が減り、最終的には6名減となった。
- ・ 学級減が避けられないことは理解しているが、教員が少ない学校に対して、どのような配慮をしていただけるのか。
- ・ 小規模校に対する、ハード面或いはソフト面の補助等について、県としては考えがあるか伺う。

久保 智克 軽米町教育委員会 教育長

- ・ 今回の再編計画に示された軽米高校の学級減について、本日の説明では賛成できかねる。
- ・ 再編計画では、基本的な考え方として、生徒各自が希望する進路の実現や教育の質の保障といったことが示されている。軽米高校については、これまで、小規模校のよさを生かし、習熟度別の学

習など、生徒一人一人に寄り添った教育活動を展開するとともに、進学コースと就職専門コースを設定し、各自の希望進路を実現させるなど、大きな成果と実績を長年にわたって積み重ねてきたところ。

- ・ 県教育委員会では、学校の特色化、魅力化を一層推進し、生徒に選んでもらえる学校にということを述べているが、学級減となった場合、教員数の減少も心配され、軽米高校のコース別学習などのすばらしい教育活動をどのように充実させていこうとしているのか。また、生徒の希望する進路の実現や教育の質の保障といった基本理念の具体をどのように考えているのか、本日の説明からはよく理解できなかった。
- ・ 軽米高校の教育活動の充実と特色化、魅力化の一層の推進を図るために、2学級の維持も含め、その方策について、効果的な支援を強く願います。

高橋 良一 九戸村教育委員会 教育長

- ・ 県北地域、沿岸地域の経済状況は、沿線部とは異なっていると感じている。経済的な理由により、地元の高校にしか進学できない、地元で高校があったからこそ進学できたという子どもたちがいると思う。そのような状況から、格差というものを考えた上での再編ということが、平等な教育の機会の保障になるのではないかと考えている。
- ・ 地元の生徒たちに聞くと、やっぱり地元で貢献したい、将来戻ってきたいという生徒が多かった。それは、地元で大切に愛情を持って育てられて郷土愛を持ってきた生徒たちだからそう思ったというふうに考える。これから岩手を支える地域、地域産業を支える人材というのはまさにこういう郷土愛があった子どもたちが、支えてくれるのではないかと。そうするとやはり地域の関わりの中で育ててきた小規模校の存在意義は重要であると考えている。
- ・ 小規模校の、地域の活性化に果たす役割の大きさを考慮してほしい。
- ・ 計画の中に記載されている、推計による学級減、募集停止についてはものすごい影響力を持っている。公表にあたっては、慎重な配慮が必要だったのではないかと考える。
- ・ 小規模校の存続にあたっては、いわて留学が非常に有効な手立てだと考えている。以前から繰り返し話しているが、生徒募集の条件について、入試条件の一層の緩和や条件整備を進めて欲しい。
- ・ また、コーディネーターの配置について、財政支援も含め、県の方で力を入れて欲しい。
- ・ 青森県では、1学級校が2年連続定員の半数を切った場合の募集停止の基準をやめるとのことであり、一歩進んだ取組をしようとしていると感じる。

中野 善文 二戸地区中学校長会（二戸市立福岡中学校長）

- ・ 再編計画について、岩手の復興教育の理念が反映されており評価する。
- ・ 学校規模については、本県の広大な県土、地理的条件等を鑑みて、どの地域の子どもたちも等しく教育を受けられる環境を整えることが大事だと思っている。
- ・ 水産の学びについて、生徒数の減少という問題があるが、集約をすることが果たして最善なのか慎重に考えるべきだと考える。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 農場の活用については、知事部局も含めて検討していく。
- ・ 進学、就職のクラス分けについては、現在の1学級校の10校は、ほとんどが進学と就職に分かれて授業を行っている。これらは学校長の権限において行うことができる。学校のカリキュラムについては、基本的に学校において検討がなされ、県教育委員会で審査し決定するものである。その中で例えば、Aコースは進学コース、Bコースは就職というような形で取り扱うこととなると思う。
- ・ 募集停止と統合の違いについては、基本的には募集停止にした後、2年生3年生は卒業するまではその校舎に残る形と、完全統合ということで2年生と3年生が統合後の学校に一緒にいるという

形もある。それらは、統合にあたって、両校で検討して決定することとなる。

- ・ 種市の海洋開発科については、県立高校の潜水技術の学びの拠点として、その機能を維持することを想定しているため募集停止基準は設けていない。
- ・ 単位制のメリット、デメリットについては、教員加算の方に目が行きがちだが、生徒に向けたメリットとしては、習熟度別授業が実施できるとか、多様な進路希望が選択できるとか、個々の学習ニーズに対応した学校設定科目の開設ができることが生徒にとってのメリットとなる。
- ・ 単位制導入の手続きについては、基本的には手上げ制としている。それぞれの高校で単位制を導入したいという話があれば、県教委に相談いただくこととなる。
- ・ 福岡高校への就職コースの設置については可能である。教育課程の中に作る形でもよいし、単位制を導入することで就職クラスを作るということも可能と思われる。
- ・ 教員の少ない学校への配慮や、ソフト面、ハード面の整備という点についてだが、国において、高校改革に関わる交付金が創設されるとの情報が有り、具体的内容は不明だが、こちらを活用していくということも考えている。
- ・ 小規模校における教育の質をどのように確保するかという点については、遠隔授業などの実施要件の弾力化を国の動向を見ながら進めるとともに、国に改正するよう要望をしていきたいと考えている。
- ・ 福岡高校の建て替えについては、県教委としてもしかるべき考え方を持って、予算を担当する部局にしっかり説明した上で、ある程度理解はいただいたところである。

山本 卓也 二戸市PTA連合会 会長

- ・ 軽米高校について、1学級となってもしっかりと対応していくとのことであるが、出前説明会等でしっかり説明してほしい。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 今回、出前説明会については期間を設けて実施することとしているが、軽米高校については、期間に限らず、中学校やPTAの方々の都合も踏まえて、期間内に限らず実施する予定である。

高橋 啓介 高常自動車工業株式会社 代表取締役

- ・ 軽米高校の学級減について、中高一貫校であるので、軽米中学校から軽米高校に進学するにあたっての影響等についても、説明が必要になると思う。また、教員が減となることで、教育の質にどのような影響があるのかといった点についても、保護者等に説明が必要になると思う。

上野 光久 一戸町教育委員会 教育長

- ・ 再編計画の中に、高校の充実に向けた方策として、他校の優良事例の導入を促すなど、課題解決学習等に対する生徒の意欲を向上させ、という言葉があるが、具体的にはどのような方法となるのか。
- ・ 一戸についても、盛岡を目指す生徒がだんだん増えてきている。小さな地方の学校ではこういう取組が有効であるといった事例を、核となる教員を配置することで広めていくことが有効ではないか。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 8月1日に岩手大学において、小規模校及び専門高校を中心とした15校を集めて、探究学習の交流会を開催した。交流会では、それぞれの生徒が他校の事例を聞いて学びを深めたり、岩手大学を退官されたシニアエキスパートの方々に助言者で参画いただいたり、そういった形で、生徒に対する支援もしているところ。
- ・ また、今年度新たに魅力化アドバイザーを配置し、小規模校を中心に訪問して、どのような支援

が必要かなどについて、類型化体系化して、今後横展開していく予定である。

- ・ 地域連携コーディネーターについては、地域おこし協力隊を活用いただくなどして、一部、教員の負担も軽減しつつ、その地域の地域産業などについて、探究的な学びにつなげられる取組を始めたところ。

久保 智克 軽米町教育委員会 教育長

- ・ 遠隔授業についても、まだ見通しが立っておらず、これから計画するとのこと。高校の魅力化、特色化について、具体的な支援をお願いしたい。
- ・ 軽米高校が1学級になった場合について、激変緩和ということで何かしらの支援をお願いしたい。現在の高校2年生はすでに、進学コースと就職・専門学校コースに分かれて授業を進めているため、その部分を考慮いただき、2年生に限っては、同じように2つのクラスでできるように配慮願いたい。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 学級減は年次進行で実施するため、来年度の2年生3年生については2学級のままとなり、2学級分の教員数が配置されることとなる。